



# コメの「食のバリアフリー」力を活かす！！ オリ・パラ備蓄、新潟米の輸出、食育支援 コロナに負けずコメの素晴らしさを世界に広めるチャンス

## ○ ドバイに10トン（4回目）、パリに4トン ○

4月まではコロナの影響で輸出がストップしていました。今年の田植えにフランス人、サウジアラビア人が来県する予定がキャンセルに。食べるだけでなく米作りの体験を望む外国人の存在は日本米の新しい市場が広がる予感がします。

各国の規制緩和措置で輸出が動き始めました。6/3 にドバイに10トン、6/4 パリに4トンを輸出します。

5月は台湾、ハワイへ輸出。日本の米の素晴らしさを理解する外国人が確実に増え、コロナ下でも新潟の米を欲しています。



出荷を待つドバイ向けの米

## ○ 東京都に50万食備蓄！（10tトラック9台分） ○

尾西食品(株)「販売担当」、(株)美松「製造担当」、当社「米の生産」の3社で連携して開発・販売している食物アレルギー物質27品目不使用（ハラール）の「尾西のライスクッキー」が、オリンピック・パラリンピック用として6月中旬に備蓄されます。

アレルギー、外国人、高齢者も食べられる「食のバリアフリー」は米だからできます。5年の賞味期限なので備蓄には最適です。

お米の可能性を広げ需要拡大につながります！



当社の倉庫で出荷を待つクッキー

## ○ 学校田「ケルネル田んぼ」に「もち米」の苗を送りました ○



苗を巻いて小学校へ宅配便で送る準備

明治14年ドイツ人のオスカー・ケルネル氏が駒場農学校の試験圃場に使った田んぼを、筑波大学付属中学・高校の1年生200名がもち米を育てています。収穫したもち米で入学式・卒業式の赤飯として新入生、卒業生に配られます。

しかし、コロナ対策で今年の田植えは中止。そのサポートとして「わたぼうし」の苗を送り、筑波大学の北村豊教授達、大人だけで田植えをしました。ケルネル田の伝統をコロナに負けず繋ぎました。

毎年、中野区、和光市、長岡市の学校田で田植え指導をしていますが、緊急事態宣言で県間移動が規制でやむなく苗とカルパー種子を送りました。今後の動向次第で稲刈り、ポン菓子の指導に行けることを切に願います。

## 【Japan Rice Peace Project】

事務局 (有)エコ・ライス新潟：豊永 有

〒954-0181 長岡市脇川新田町字前島 970-100

TEL0258(66)0446 携帯 090-6458-5535



マークの意味

「八十八」の米作りの手間を横にしたら2つの無限「∞食のバリアフリー」「∞循環」になります。

e-mail: [office@eco-rice.jp](mailto:office@eco-rice.jp) HP:<http://www.eco-rice.jp/>